

第352回 京都市考古資料館文化財講座／アスニー京都学講座

2025年5月24日

## 長岡京北郊の様相 ―溝路遺跡の発掘調査成果から―

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
中谷正和

### 1. はじめに

京都市南区久世殿城町に所在する溝路遺跡は、従来考えられてきた長岡京の範囲よりもさらに北側に位置します。令和6年(2024)から実施されている発掘調査の結果、京内から連続する長岡京期の道路側溝と、それに隣接する建物が発見されました。この発見が長岡京研究にとってどのような意義をもつのか、発掘調査成果とともに報告します。

### 2. 長岡京とは

**沿革** 延暦3年(784)11月に桓武天皇の命によって奈良の平城京から遷都。延暦13年(794)10月に平安京に遷都するまで、日本の首都として機能した。

**立地** 桂川と西山山地に挟まれた東西約4.3km、南北約5.3kmの範囲(図1)。政治の中心地である長岡宮は、西山山地から南東にのびる向日(長岡)丘陵の末端に位置。長岡宮の東側に広がる左京城は、桂川を始めとする大小河川によって形成された扇状地と氾濫原にあり、西側の右京城は西山山地の東裾に広がる段丘地形。全体として北・西が高く、南・西が低い地勢だが、山地・丘陵沿いに形成された段丘崖や、南東流する河川によって複雑に入り組んだ地形となっている。

**基本構造** 直交する南北・東西の道路(大路・小路)と、それらによって方形に区画された宮城(長岡宮)と街区(坊)によって構成される(図1)。

長岡宮には天皇のすまいである内裏や、天皇が出御して政務や儀式を執り行う大極殿院、官人の政務空間である太政官院(朝堂院)などを配置。

長岡宮の周囲に配される街区(坊)は、南北・東西の道路(大路)によって区画される。その街区内を、碁盤目状に組み合わせた道路(小路)で東西4つ・南北4つの計16の町(宅地)に分割(図2)。

長岡京内の道路は、都市計画の骨格をなす大路と、街区(坊)内を分割する小路がある。大路は京の中軸線にある朱雀大路(約66m)が最大幅で、次に二条大路(約44m)が続く。他の主な大路幅は約24～25m。街区(坊)内を分割する小路の幅は約9m(図3)。

**条坊施工範囲** 長岡京の北限と考えられてきた北京極大路が小路幅(約9m)であることが明らかとなっただけでなく、それよりも北方で長岡京期の溝や建物を確認。一部の南北溝は京内の道路側溝と連続する可能性が高いことから、京域北限の位置について、さまざまな説が示されている(梅本2010・2014、國下2007・2013・2020、山中1997・2001・2020a:図1・4)。

### 3. 溝路遺跡の発掘成果

調査地は北京極大路よりも北側に位置(図1)。1次調査では長岡京期の道路側溝と掘立柱建物などを発見(図5～7)。遺物は道路側溝から土師器や須恵器などの土器や瓦類が出土。

**東西道路南北側溝**:3区の溝34と溝40は、北京極大路より北1町(約120m)に位置する東西道路の南北両側溝。溝34と溝40の間の距離が約9mあることから、小路規模の東西道路と判明(図7)。

**東二坊坊間小路北延長道路東側溝?**:3～5区に位置する南北方向の溝20は、東二坊坊間小路東側溝の北延長に位置(図7)。西側溝は不明。

**建物・柱列** 東西道路北側の宅地で、掘立柱建物を少なくとも4棟確認。6・7区で検出した建物163は3間×2間以上の東西棟の総柱建物(図6)。3・11区で確認した柱列57・237は建物となる可能性。今回確認した建物・柱列の柱間は8尺(約2.4m)程度が主体となる。

### 4. 長岡京北郊の様相

**範囲** 北京極大路以北では、溝路遺跡・中久世遺跡・大藪遺跡・修理式遺跡・久々相遺跡・笹屋遺跡・渋川遺跡・野田遺跡・物集女車塚周辺遺跡で長岡京期前後の遺構・遺物が分布(図8)。また、上久世遺跡から中久世遺跡、大藪遺跡を貫流し、長岡京左京北一条三坊二町・三町(東院)東辺に向かう旧流路が想定されている(上村1989:図8)。

**南北道路側溝** 笹屋遺跡で朝堂院中軸宮内道路(朱雀大路北延長)の東西側溝、久々相遺跡・修理式遺跡で東一坊大路北延長道路の東西側溝、野田遺跡で東二坊坊間西小路北延長道路の東西側溝、溝路遺跡で東二坊坊間小路北延長道路の東側溝(図9)。修理式遺跡(東一坊大路)・大藪遺跡(東三坊坊間小路・東三坊大路・東四坊坊間西小路)で、南北道路側溝の北延長と想定される南北溝の報告(図10)。

**東西道路側溝** 南北道路にくらべて確認例が少ない。溝路遺跡・笹屋遺跡で北京極大路の北1町に位置する小路幅の東西道路南北側溝(図9)。また、大藪遺跡では北京極大路の北2町の位置で推定大路幅の東西道路の北側溝(図10)、修理式遺跡では北6町の位置で大路幅の南北側溝の報告。

**建物** 溝路遺跡・野田遺跡・渋川遺跡・久々相遺跡・中久世遺跡・大藪遺跡で確認。久々相遺跡1次調査で確認した建物の主軸方位は、北に対して西に振るもの(飛鳥～奈良時代)から、正方位(長岡京期)、東に振るもの(平安時代)へと変遷(國下2003)。中久世遺跡でも飛鳥時代から平安時代までの建物を確認しており、④1980年度調査では平安時代初期の南廂付掘立柱建物(SB7)が見つかっている(図1・8・11～15)。中久世遺跡では瓦の出土は少ないが、③2023年度調査では奈良時代の中空円面硯が出土(図13:土7)。

**祭祀遺構** 大藪遺跡では流路に投棄された人面墨書土器やミニチュアカマド・ナベ、土馬や人形などが出土(図1・8・16)。長岡京南東部の長岡京左京七条三坊跡・水垂遺跡(図1・8・17)と、同南西部の西山田遺跡でも、同様の祭祀具の流路投棄を確認(図1)。京域境界で執り行われた祭祀跡と推定されている(中島2020・2024)。

### 5. おわりに

本稿では、京都市南区久世殿城町に所在する溝路遺跡の発掘調査成果を報告した。長岡京の範囲や構造、長岡京北郊の様相について、今後の調査や研究を期待する。

<b>参考文献</b>	
網 伸也	『平安京造営と古代律令国家』 塙書房 2011年。 「長岡京から平安京へ」『シリーズ古代史をひらく 古代の都―なぜ都は動いたのか』 岩波書店 2019年。
上村 和直	「長岡京左京一条三坊跡」『長岡京跡・大藪遺跡発掘調査概報 昭和63年度』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年。
梅本 康広	「長岡京」『古代の都3 恒久の都平安京』 吉川弘文館 2010年。 「長岡京の条坊施工範囲と造営計画」『平成24年度 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 年報 都城25』 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 2014年。
國下多美樹	「久々相遺跡第1次」『向日市埋蔵文化財調査報告書第60集 久々相遺跡・中海路遺跡』 財団法人向日市埋蔵文化財センター 2003年。 「長岡京」『都城 古代日本のシンボリズム』 青木書店 2007年。 『長岡京の歴史考古学研究』 吉川弘文館 2013年。 「都の北に何があったか 一方格地割都市プランの拡大―」『難波宮と古代都城』 同成社 2020年。
古閑 正浩	『平安京と近京圏の形成史』 塙書房 2023年。
中島 信親	「長岡京条坊図」『平成9年度財団法人向日市文化財センター年報 都城10』 財団法人向日市文化財センター 1999年。 「長岡京」『講座機内の古代学第Ⅲ巻 王宮と王都』 雄山閣 2020年。 「長岡京の祭祀遺物」『東アジア都城と宗教空間』 京都大学学術出版会 2024年。
山中 章	『日本古代都城の研究』 柏書房 1997年。 『長岡京研究序説』 塙書房 2001年。 「律令制都城の形成」『講座機内の古代学第Ⅲ巻 王宮と王都』 雄山閣 2020a年。 「平安京と遊獵」『講座機内の古代学第Ⅲ巻 王宮と王都』 雄山閣 2020b年。

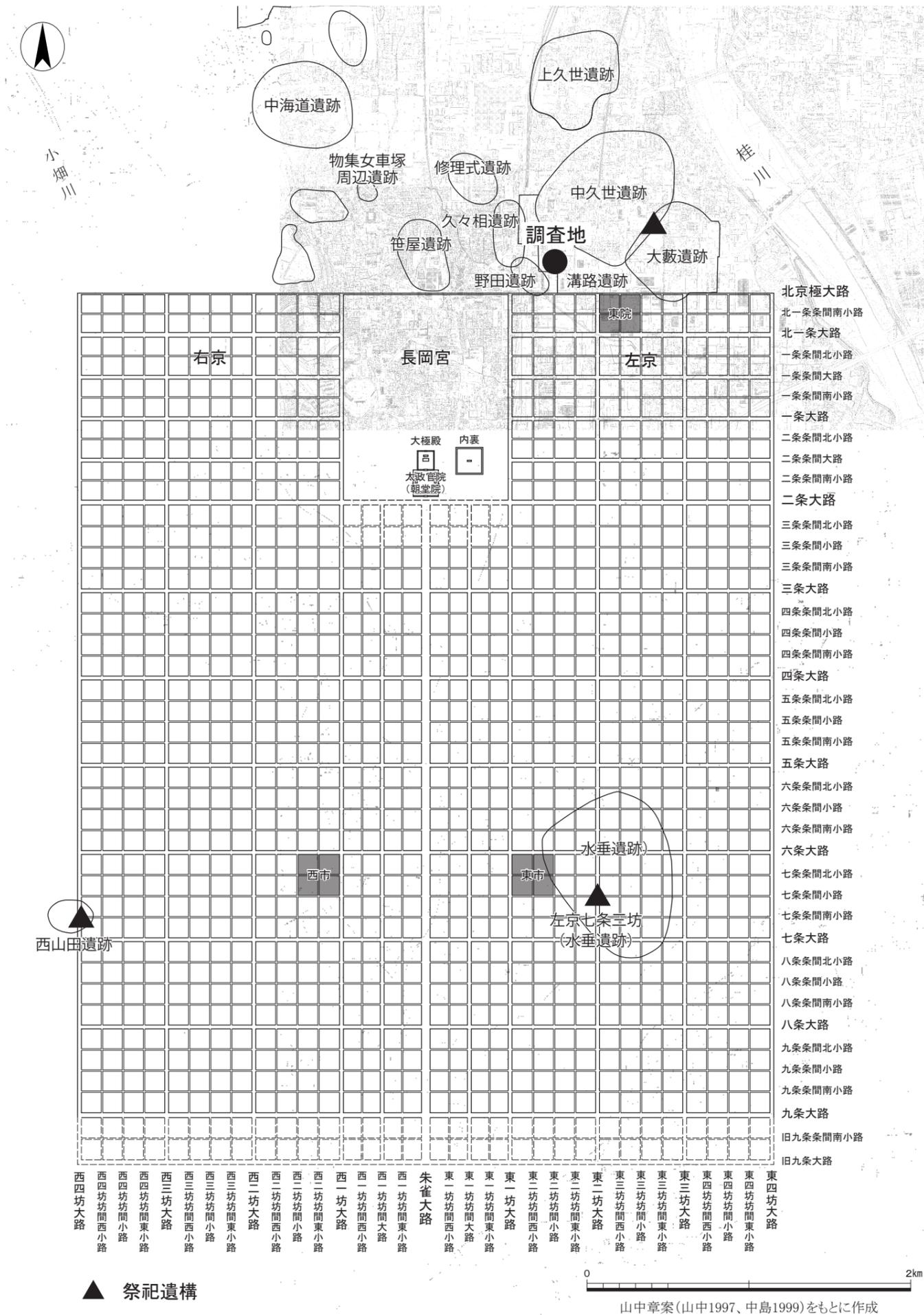


図1 長岡京復元図 (1 : 30,000)

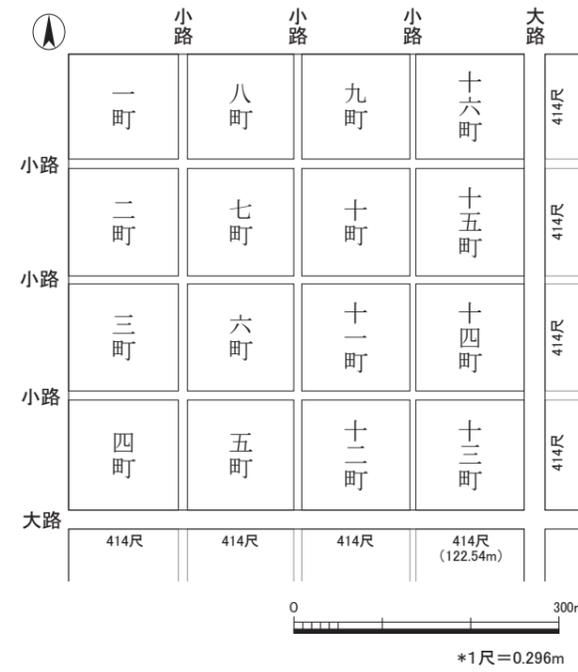


図2 長岡京左京の条坊模式図(國下2007)

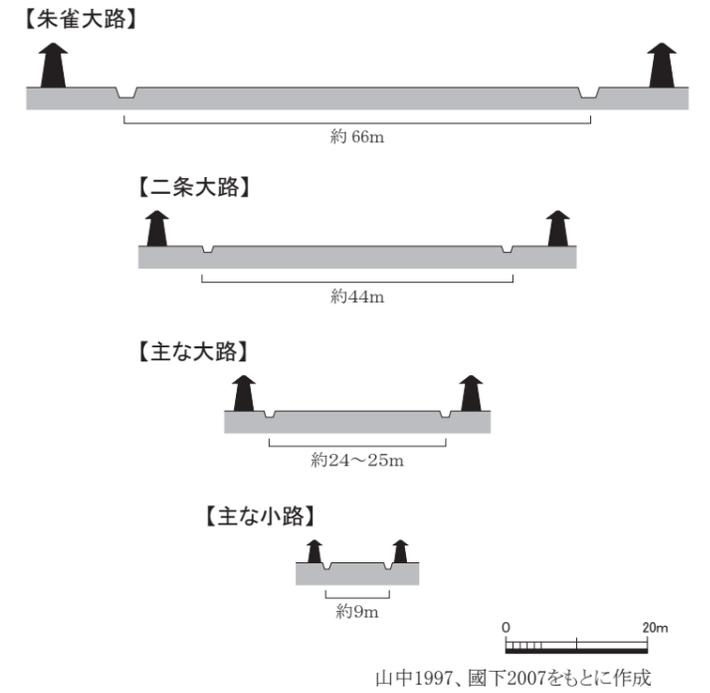


図3 長岡京道路の基本構造

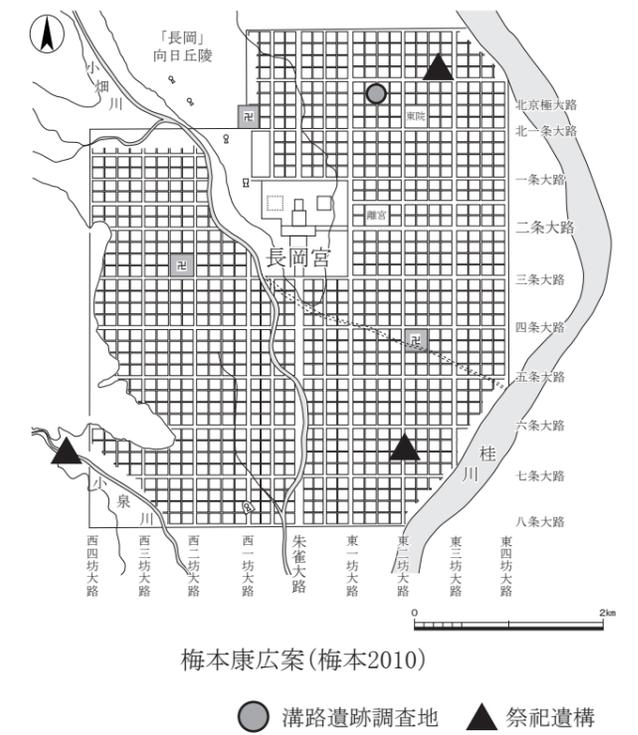
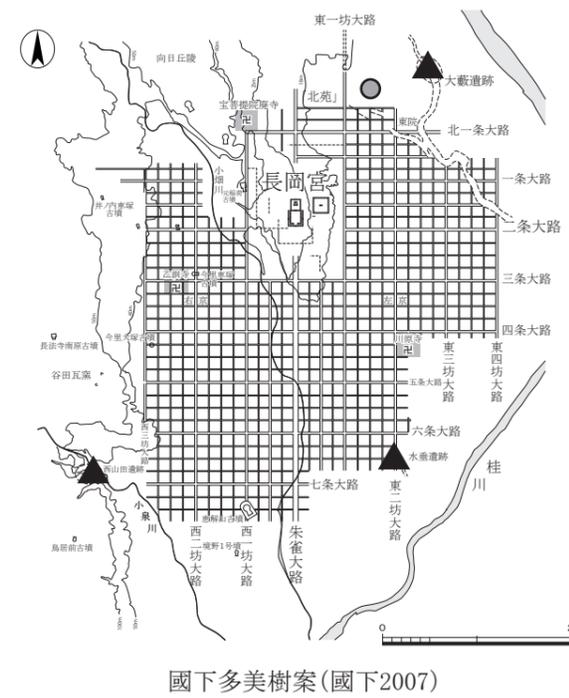


図4 長岡京の条坊施工範囲 (1 : 75,000)

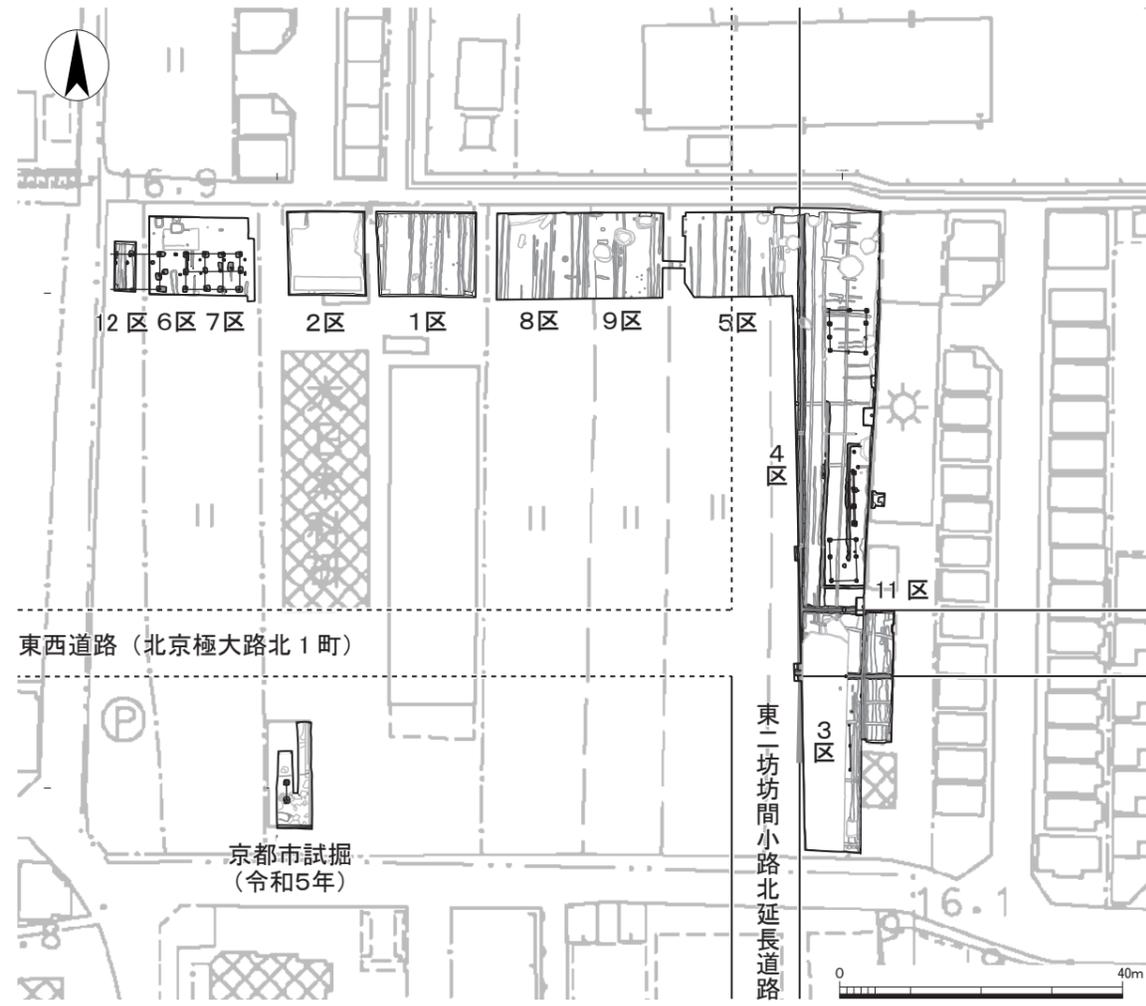


図5 溝路遺跡 1次調査区配置図 (1 : 1,000)

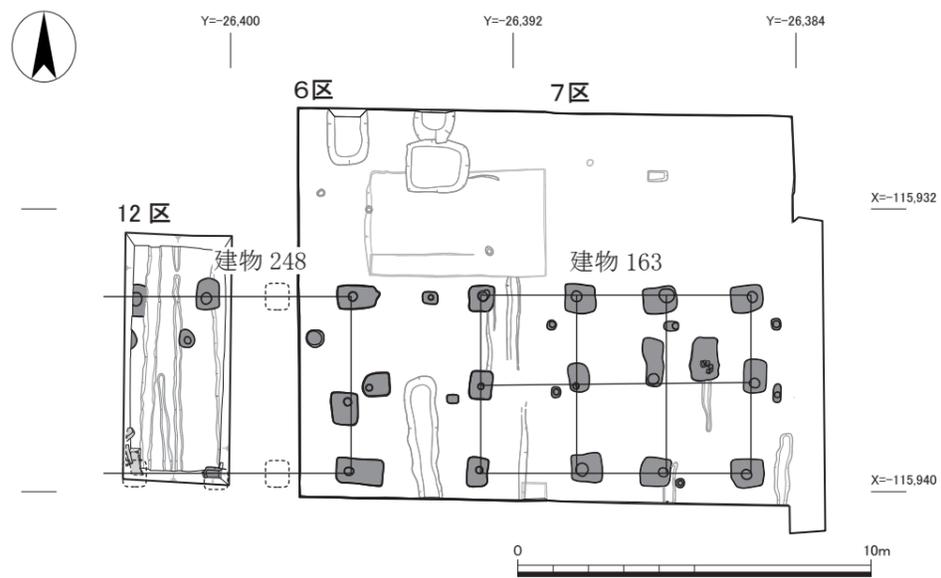


図6 溝路遺跡 1次調査 6・7・12区平面図 (1 : 200)

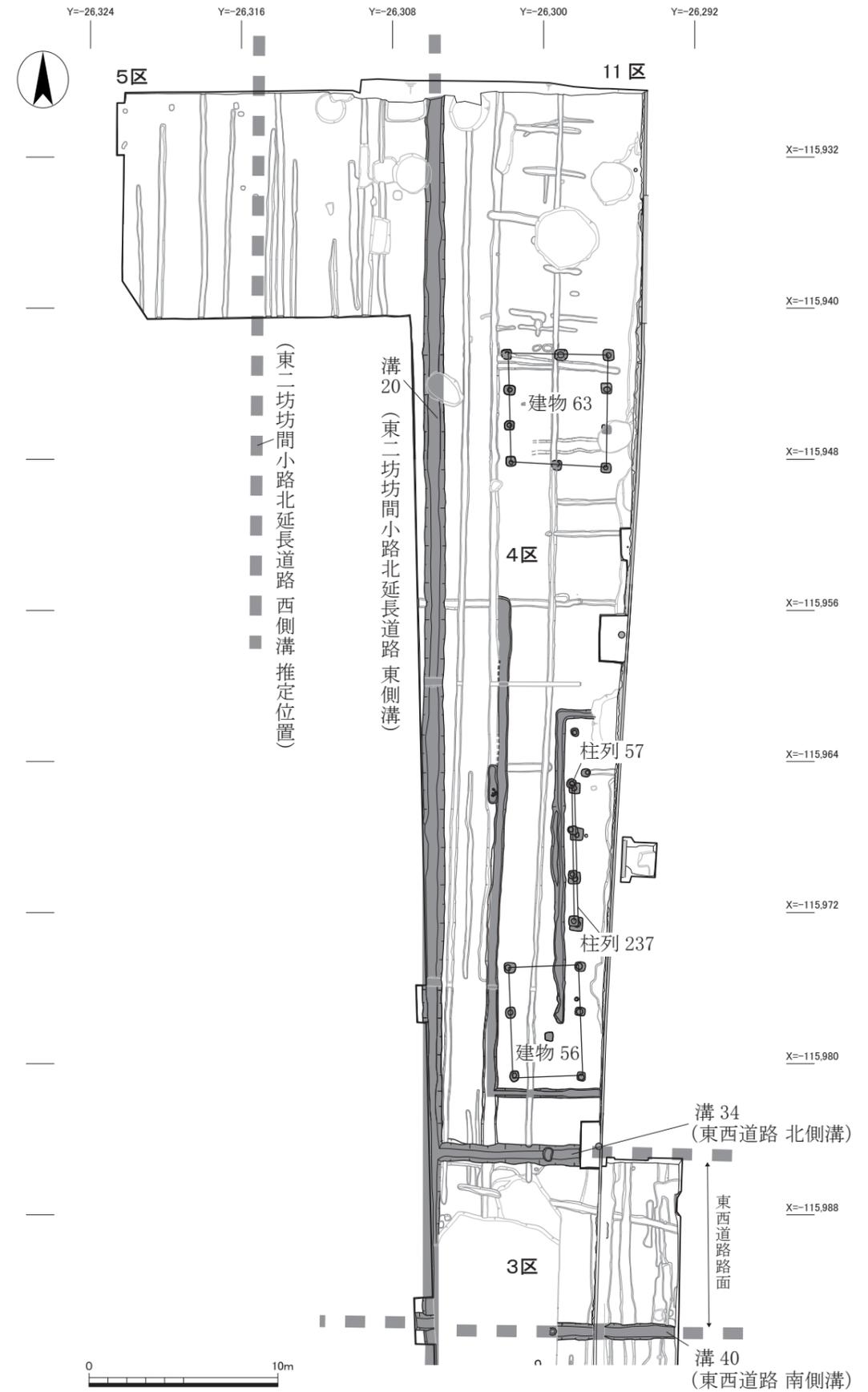


図7 溝路遺跡 1次調査 3・4・5・11区平面図 (1 : 300)



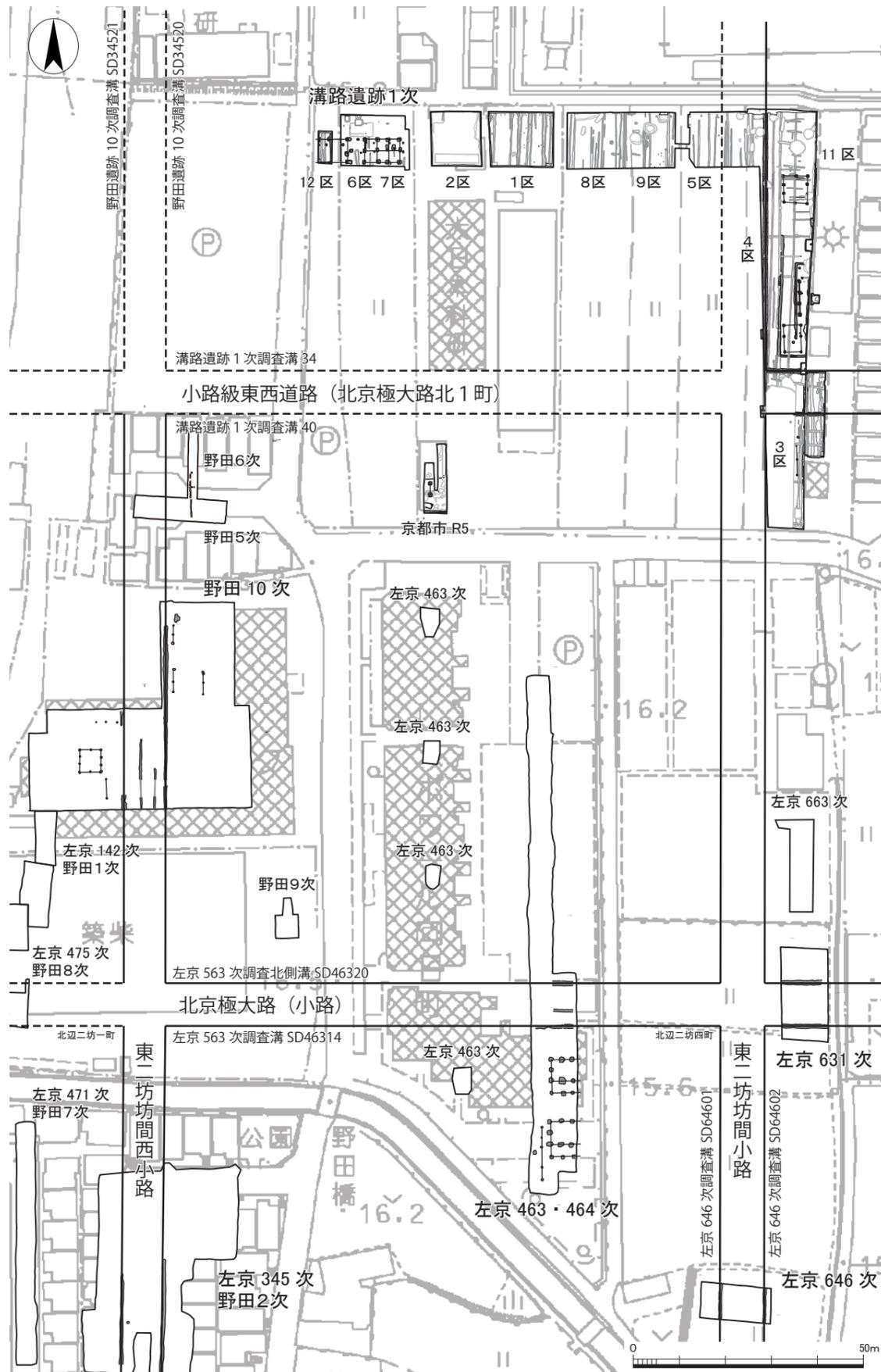


図9 溝路遺跡周辺道路側溝 (1:1,200)

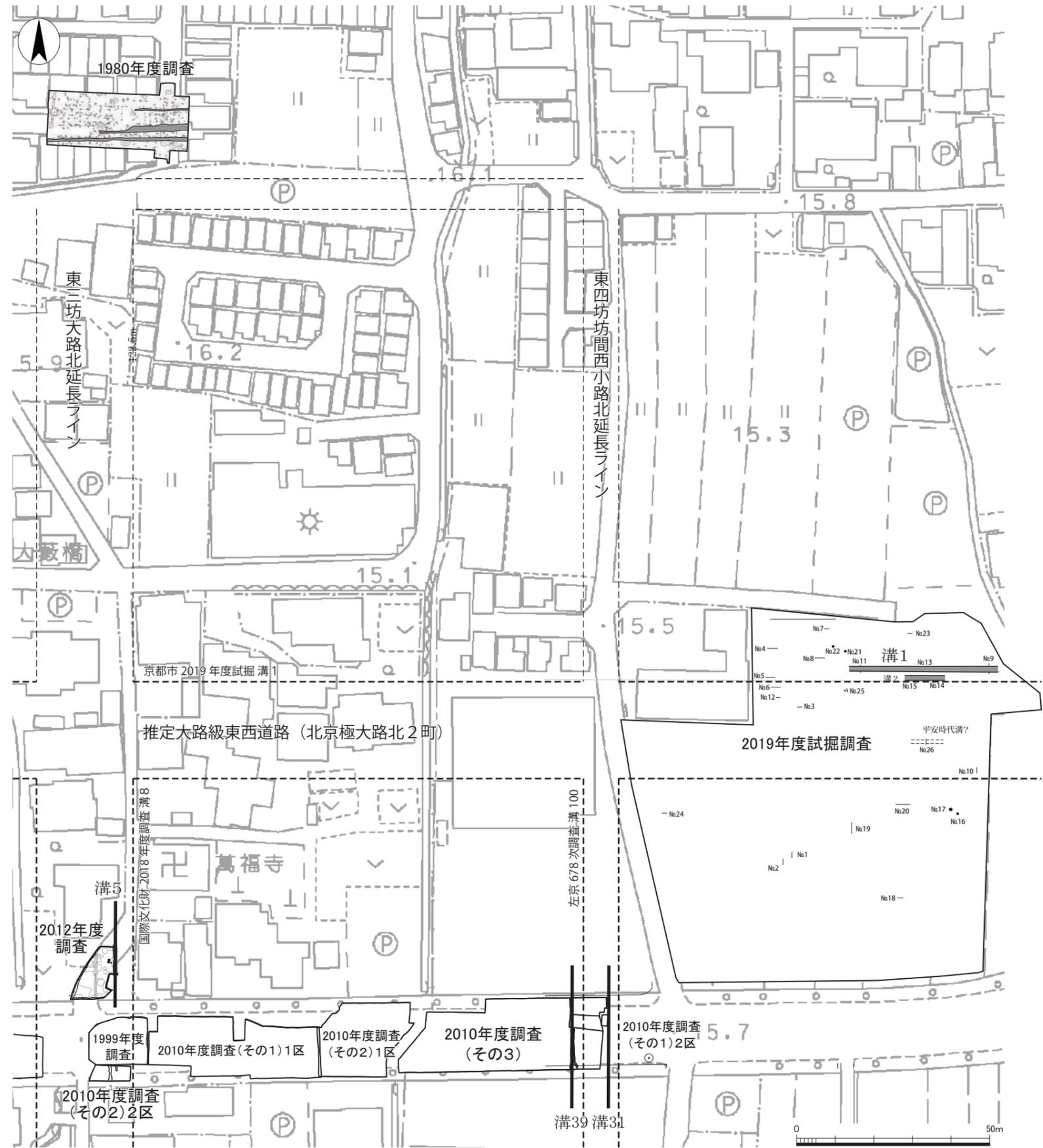


図10 大藪遺跡推定道路側溝 (1:1,200)

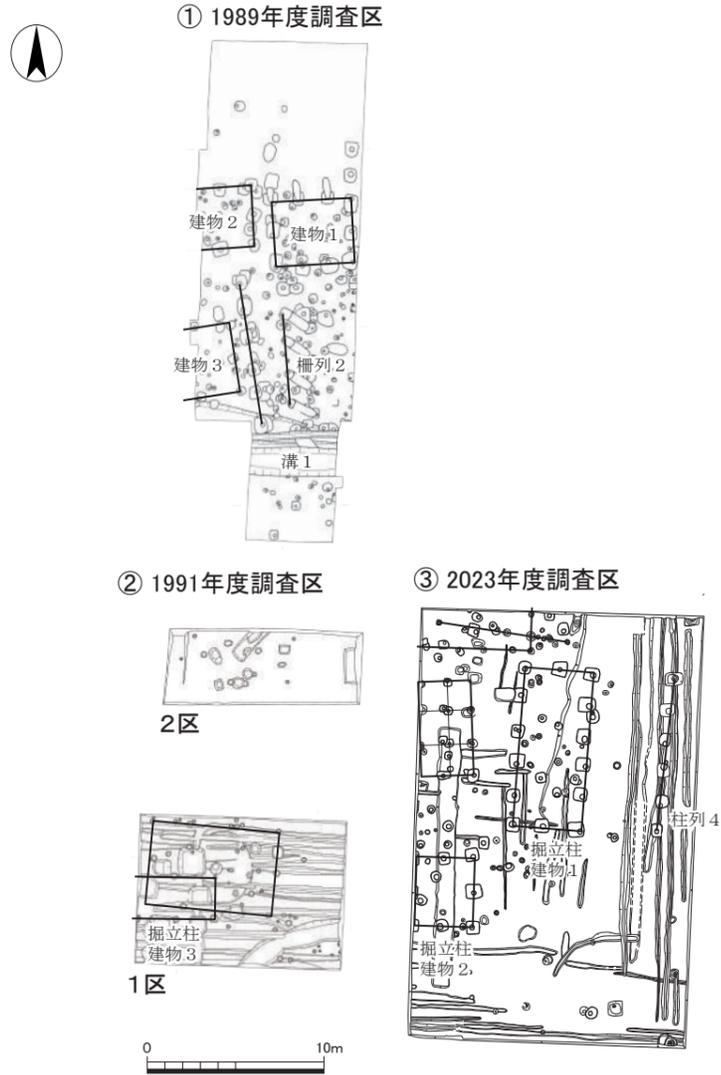
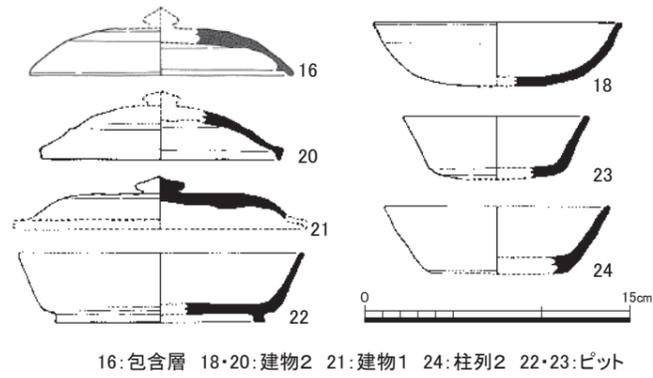
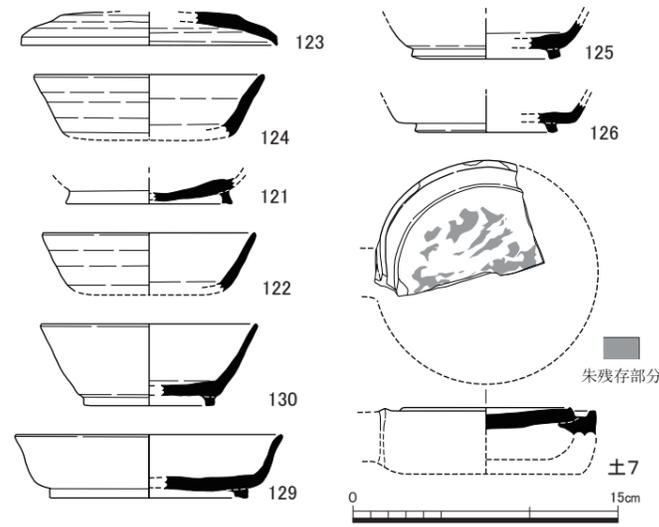


図11 中久世遺跡平面図1 (1:400)



16:包含層 18・20:建物2 21:建物1 24:柱列2 22・23:ピット  
図12 中久世遺跡①1989年度調査出土土器 (1:4)



121・122・土7:掘立柱建物1 123~126:掘立柱建物2 129・130:ピット  
図13 中久世遺跡③2023年度調査出土土器 (1:4)

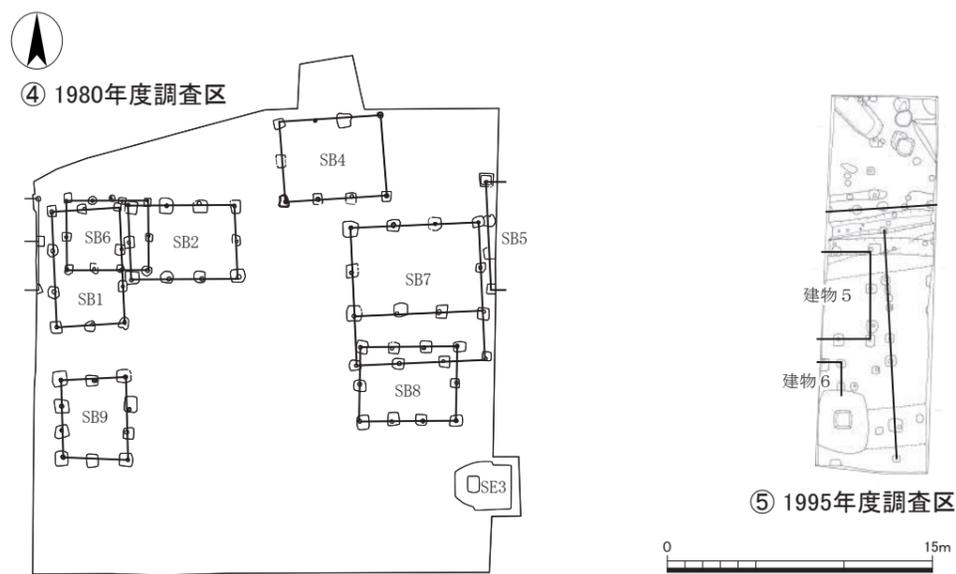


図14 中久世遺跡平面図2 (1:400)

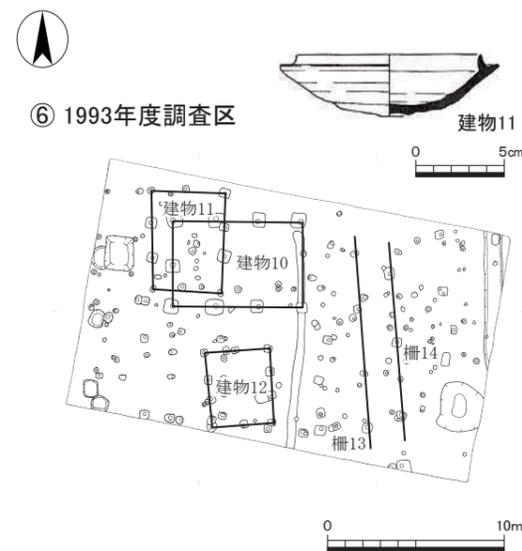


図15 中久世遺跡平面図3 (1:400)

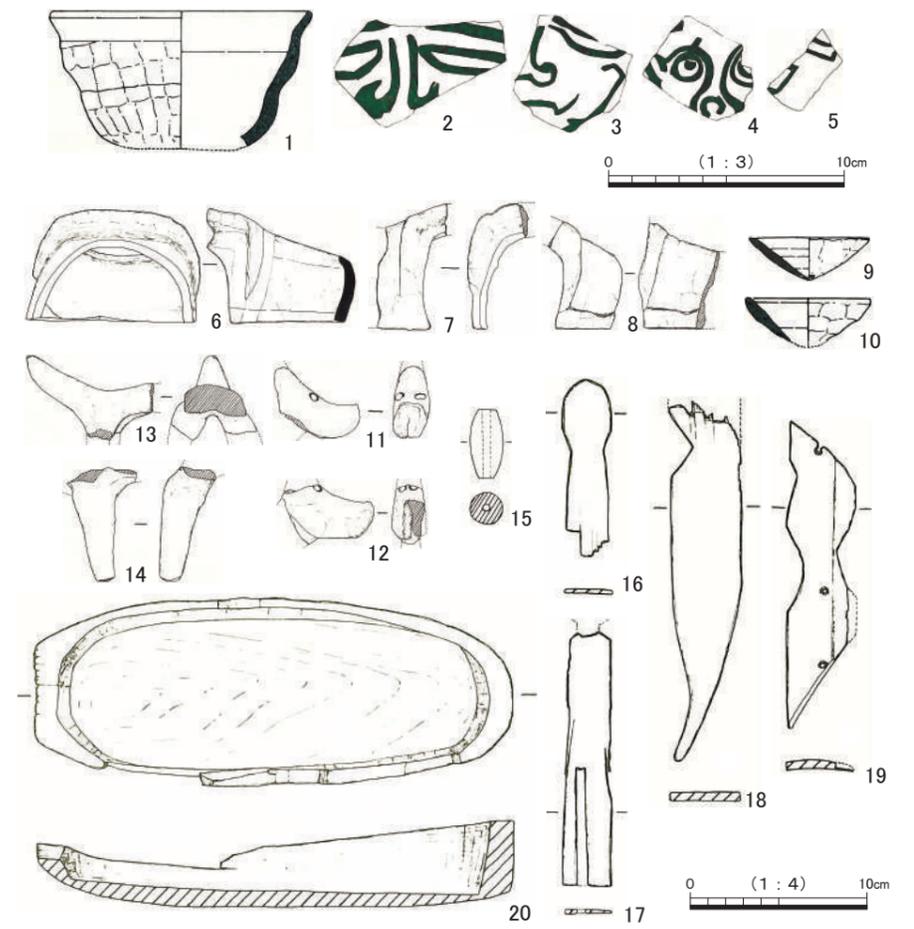


図16 大藪遺跡 1972年調査 出土祭祀具 (2~5は1:3、他は1:4)

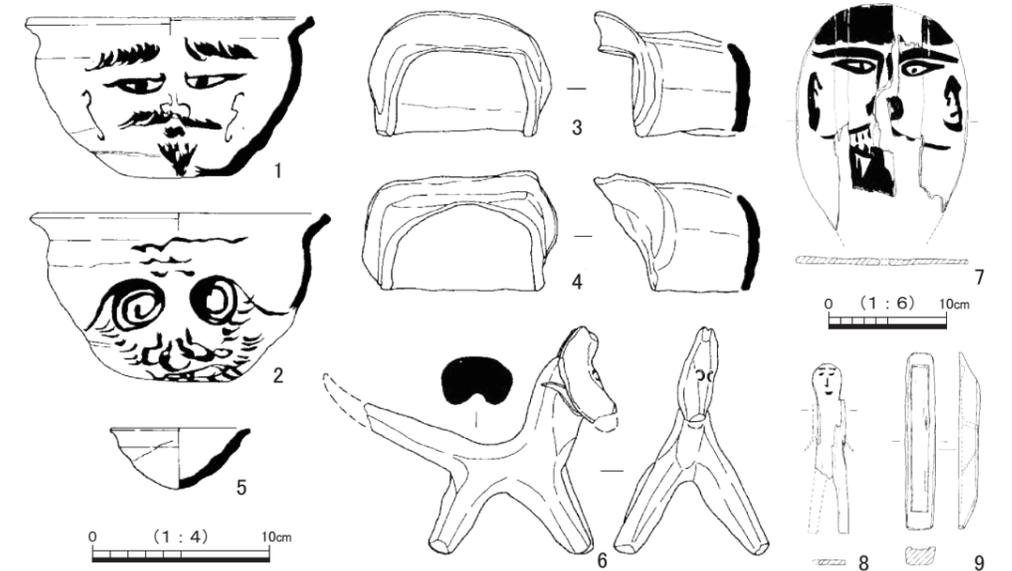


図17 長岡京左京七条三坊跡・水垂遺跡溝285 出土祭祀具 (1~6は1:4、他は1:6)